

同年代の雄姿に刺激



「いつか、あのステージに『起業への思いが高まった』。群馬イノベーションアワード(GIA)2020」のファイナルステージが行われた5日、会場のヤマダグリーンドーム前橋(前橋市)には県内各地の高校から、同年代のファイナリストの雄姿を見ようと多くの高校生が駆け付けた。華やかに演出されたステージを出場者の家族は手に汗握って見守り、力強い発表に起業への意欲を刺激される人の姿も見られた。

会場の「いつかステージに」 高校生の

「こんなに大きな舞台だとは思っていなかったのう」。祈るように舞台を見



真剣な表情で出場者のプレゼンを見つめる高校生

つめたのは、大学・専門学校生の部に出場した共愛学園前橋国際大3年の山田武蔵さん(桐生市相生町)の母の麻美さん(40)と、妹の芽依さん(15)。ビデオを構えながら、「部屋にこもって練習する様子を見てきた。悔いのないよう、思い

つ切り発表してほしい」と一心に見守った。

昨年のファイナリストで同大4年のラメザニ・アイディンさん(21)は「ステージを見ると1年前を思い出し、気持ちが高まる。いつかは事業を立ち上げたい」と力を込めた。

利根商業高1年で新聞部の森下咲綺さん(15)と田村美紗さん(15)は「先輩の活躍する姿を全校に伝えた」とカメラを持った。きらびやかな舞台での発表を見て、「思いを込めながらも、客観的なデータを使って上手にプランを紹介していた」と同年代の活躍に目を見張った。

高校生の部で入賞した高

崎経済大附属高1年の金子菜桜さんの同級生、岡部優菜さん(16)は「自分にはない発想ですごい。緊張していたみたいだけど、練習の成果を出せて良かった」と友人の栄冠を喜んだ。

同級生の発表を感じた様子で聞き入っていた市立太田高3年の永井湧大さん(18)は「社会の課題を解決したいという発表で、興味深かった。起業に興味があるので、来年は大学生としてあのステージに立てるよう頑張りたい」と力強く語った。